



全教北九州

新聞 全教北九州
全教北州市教職員組合
2025年8月29日

全教北九州

検索

人事院勧告 特集

この新聞はすべての教職員に配布しています

「物価上昇を上回る賃上げの実現」に到底及ばず

労働基本権制約の代償機関としての役割発揮できず

8月7日、人事院は国家公務員人事管理に関する報告、給与報告・報告を、内閣総理大臣と両院議長に対しておこないました。昨年水準を上回るベア勧告で、かつすべての世代の改善となりました。しかし、石破首相が目標とする「物価上昇を上回る賃上げの実現」には及ばず、国民のいのちとくらし・教育のため、長時間労働のもとでも必死に奮闘する公務員の労苦に報いるものとはなっていません。

中高年齢層を含むベースアップは運動の成果

今年の勧告は、昨年水準を上回るベースアップ、かつすべての世代の改善となります。一時金は、勤勉手当と期末手当あわせて0・05月分の引上げ勧告となり、1年間で現在の4・60月分から4・65月分となりました。昨年の1万1183円(2・76%)を大きく上回るベースアップや中高年齢層においても昨年を大幅に上回る勧告は、今年の春闘で

の粘り強いたたかいと8万筆を超える「公務労働者の大幅賃上げ等を求める署名(人勧署名)」のとりくみなど、官民一体となった社会的な賃金闘争の成果と言えるものです。しかし人事評価制度の悪影響を少なくするためには勤勉手当は圧縮し、引上げ分は期末手当に配分すべきです。人事評価の業績評価が良好でないとされた場合、北九州市では次年度2回の勤勉手当が100分の70から100分の90に減額されるためです。

「物価上昇を上回る賃上げの実現」に到底及ばず

ところが、モデル試算による定期昇給分を加えた給与水準は、月収で5・1%増にとどまり、25春闘の民間賃上げ率5・52%(厚労省調査)や、8月4日に示された最低賃金引上げ目安額63から64円(6%)を下回っています。さらに、物価が46か月連続して上昇している現状では、石破首相が目標とする「物価上昇を上回る賃上げの実現」には到底及ばず、国民のために、長時間懸命に働いている公務員の労苦に報いるものとなっています。

臨時・非常勤、再任用は業務と責任に応じた賃上げが必要

臨時・非常勤職員については、常勤職員に連動して賃上げとなることが想定されますが、その他はゼロ回答です。再任用職員については、一時金が常勤職員と同じ0・05月の改善となったものの、そもそも支給月数が常勤職員の約半分に抑えられている実態は解消していません。60歳前後の給与水準(給与カーブ)については、「民間企業の高齢期雇用の状況を注視しながら定年引き上げが完成する2031(令和13)年までに必要な措置を講じるよう引き続き検討する」と言及するのみです。生計費原則及び現場が担う業務と責任に応じた賃上げが必要です。

北九州の戦争遺跡

西南女学院
ロウ記念講堂③
(小倉北区)

1944年3月、福岡県と軍から全敷地の徴用を求められました。学院と保護者は移転先探しに奔走しましたが難航し、見かねた小倉中学校(現小倉高校)と小倉高等女学校(現小倉西高校)の校長と明恩寺住職の好意で小倉中学の明陵学園、小倉高女の体育館、明恩寺本堂に移転できました。後に保護者で安川電機社長の安川第五郎の助力で小倉市内の運輸通信省の事務所が使用できることになり、明陵学園とこの事務所に移転先を集約しました。しかし7月から鉄道省小倉工場、東芝小倉工場、陸軍小倉兵器補給廠に動員され授業は停止しました。戦争中3回の徴用で、講堂は北九州地区の高射砲部隊の司令部として利用されました。終戦により返還された時には講堂内は荒れ放題、運動場は畑になっており、復旧に1ヶ月以上かかりました。現在講堂は中学と高校の礼拝堂として使用されています。

切実さを増す「せんせいふやそつ」

教育予算を増やすことは国民のねがい

7/25「えがお署名」提出集会

7月25日（金）、東京都内で「えがお署名（2026年度政府予算に向けた文部科学省概算要求に対する要請署名）」提出行動が開かれ、8万8千147筆の署名を提出しました。全教北九州からも代表が参加しました。

主催者あいさつをした「子ども全国センター」幹事の小林善亮弁護士は、「先生が足りず授業ができない学校が多く、教員を増やそうという声は切実。教育予算を増やすことは国民のねがいです。」と述べました。

続いて北海道、群馬、静岡、奈良、北九州が発言しました。北九州からは、学校施設の老朽化に伴う改修工事中止と中学校における兼務による職員の負担増を報告しました。

署名運動は「教育全国署名」へとシフトしていきます。引き



文部科学省前で署名を提出

25人勸 全世代が生活改善を実感できる大幅賃上げを

7月25日、人事院（東京都）前で全労連（全国労働組合総連合）・国民春闘共闘、公務労組連絡会、全労連公務部会の共催で、「全世代が生活改善を実感できる大幅賃上げの人事院勧告（人勸）を求める中央行動」が行われました。

大幅賃上げを求める署名7万8743筆分を提出しました。参加者は人事院に向けて「大幅賃上げの勧告を出せ！」と力強くコールしました。

その後「7・25学習決起集会」が開かれ、今年の人事院勧告をめぐる情勢や課題を参加者で共有しました。

ワクワクと驚きと感銘の夏

8/5 原水爆禁止2025世界大会関連行事 8/17-19 教育のつどい



夏休み期間は、「原水爆禁止世界大会」とその関連行事、「教育のつどい」と平和と教師の専門性を学ぶ行事が開催されており、全教北九州はこれらの行事に参加をよびかけています。原水爆禁止世界大会に関連した行事に参加した組合員と、今年初めて「教育のつどい」に参加した組合員のレポートを紹介します。

平和への思いを新たにした1日―原水爆禁止2025世界大会関連行事

8月5日、広島での原水爆禁止2025世界大会関連行事に参加しました。

午前中は、「核兵器のない平和で公正な世界をめざす労働組合国際会議」に参加。発言からどの国でも軍拡と教育・社会福祉切り捨てが進んでおり、第二次大戦前夜のような危機感を感じました。しかし、同時に「平和と生活を守るために労働組合が手を繋ぐ」という、ワクワク感も感じました。

午後は、「第52回全国高

教師の自由と裁量を発揮できるよう専門性を高めたい―教育のつどい

8月17日から8月19日に埼玉で行われた、教育のつどいに初めて参加させていただきました。安田菜津紀さんの記念講演では、身近な差別から国内における難民認定の壁、戦闘が続くパレスチナガザ地区と日本のつながりでした。

2日目、3日目は、「発達・学力、教育課程づくり」の分科会に参加しまし

た。どの実践もわくわくする授業実践で感銘を受けました。何より、こんなに教育課程が自由であるということに驚きました。

3日間の経験を通し、スタンダードカリキュラムにとらわれず、教師の自由と裁量を発揮できるよう、教師としての専門性を高めていきたいです。



安田菜津紀さんの講演

